

実践講座 3日(日) 9:30~11:00

教職に就いて間もない人や免許外の人にも対応した入門講座です。小テーマ・小題材の学習会として、教材の魅力と授業の展開のおもしろさを探求します。ときには実技も交えながら討論していきます。

A 「布加工のコツ」 担当 根本裕子(常任委員)

手縫いでティッシュケースを製作しながら、衣服のほころび直しに必要な「まつり縫い」「返し縫い」の技術指導や生徒の意欲を高める指導方法の工夫を紹介します。ミシン縫いでブックカバーを製作しながら、指導のコツや題材の選び方の視点を探ります。

B 「木工指導の勘所」 担当 下田和実(常任委員)

家庭生活の中で工具を使って物づくりをする機会がほとんどなくなった今だからこそ、生徒に経験させたい木工。うまくできたという自信を持てるように、どんな工具を用意し、どのように指導すればよいか、工具の選択、使い方、手入れ、保管方法などを具体的に示し、実習します。

講演 「放射能災害と科学の問題」 3日(日) 14:00~15:45

講師 清水 修二 福島大学経済経営学類教授。

福島原発の重大事故は、放射線の健康影響をめぐる見解の違いから、人々の間に悲劇的ともいえる対立や分断をもたらしています。こういうときこそ科学的で冷静なものの見方が重要であるのに、科学や専門家の権威は大きく損なわれてしまっています。どうしたらこの混乱を乗り越えることができるか、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

著書『原発とは結局なんだったのか いま福島で生きる意味』清水 修二 東京新聞出版局

『原発になお地域の未来を託せるか—福島原発事故 利益誘導システムの破綻と地域再生への道』
清水 修二 自治体研究社

福島の教育を語る—報告と討論— 4日(月) 16:00~17:30

◆ 福島県喜多方市の「小学校農業科」の成立から現在までを追った実証的研究の報告です。食育・食農教育・「生物育成に関する技術」のありかたを考えてみたい。

報告 野田知子(東京学芸大学非常勤講師) 阿部英之助(和歌山大学教育学部)

◆ 東日本大震災と福島原発の事故は、地域や学校教育にどんな影響をもたらしているか。現職教員が自身の日常とその活動のなかでぶちあたる地域的な特徴や現実を生々の声で語ります。マスメディアの報道だけではわからない話を聞くことができます。 報告 福島の先生方

教材教具発表会 3日(日) 16:00~17:30

日頃の実践から考えられた手づくりの教材や教具の発表会です。模擬授業形式で紹介されるものもあります。常時展示コーナーも有り。とっておきの教材や教具をご持参ください。

テーマ別分科会 I 4日(月) 9:00~12:00

1 「食と農」

作物を栽培し加工して食べるということは、生きるための最も基本的な技術です。ここには子どもたちに学ばせたいことがたくさんありますが、限られた時間の中でどんな授業ができるのか。1時間の授業で調理実習を行う工夫は? 評価は? など。収穫物を調理する技と家のコラボレーションの実例や施設・用具・材料の準備や学校ごとに異なる条件をどう活かすか、学校外の方との連携をどうするかなど意見交換します。

2「電気・機械・情報」

電気、機械、情報などの工学的な分野は技術教育として大事な分野です。産教連では技術の原理をいかした教材の探究を重視してきました。生産技術について理解を広げるための基礎・基本とは何か、生徒の理解を促すにはどのように指導するのがよいか、それぞれ具体的な実践を出しあって検討していきます。光、音などを検知して制御する Ardu Block の実践報告も予定しています。

テーマ別分科会Ⅱ 5日(火) 9:00~11:00/11:00~12:00

3「実験・実習を取り入れた授業」

実際にやってみる授業は映像では伝わらない実感があります。木材、金属、プラスチック類、糸・布・食品を素材にした実験や実習で、道具や機械と加工方法の選択と指導はどうしていますか。限られた時間の中でも「わくわくハラハラする授業を」「これだけは身につけさせたい」という指導者としての視点や工夫があると思います。分科会では、実践例をもとに、わかる・できる・たのしい授業をめざして討論します。

4「教育条件・評価」

評価をどうするかに神経を使い、「何を子どもたちに伝えたいか」という教科観を振り返る機会がなかなか持てないということはありませんか。少ない教科時数のため受け持つ生徒の多くなることもあり、評価し易い、教え易い教材・授業が求められてもいます。教育条件に制約されることも多々あります。教育条件と評価について交流し、子どもたちにとってあるべき評価とは何かを討議します。

実技コーナー「匠塾」 4日(月) 13:00~15:45

授業にすぐに活かせる教材・教具を作ります。「実践講座」「テーマ別分科会」関連の実技的な内容を扱います。時間いっぱいかけてつくるものや2つ3つと取り組んで授業のネタや材料をいろいろ仕入れることもできます。①~⑥は出店予定。当日持ち込み出店歓迎。写真は今年の製作風景と作品。

- ①低融合金を使ってアクセサリを作る
- ②安くて簡単! 制御教材Ardu Block
- ③延長コード製作指導のいろいろ
- ④木製テープカッター New バージョン
- ⑤短時間でできるブックカバーや箸袋
- ⑥小麦粉の調理はおもしろい



夕食・交流会 3日(日) 18:00~20:00

夕食の時間を利用して交流会を行います。分科会では話せなかったことや体験・愚痴など老若男女が気楽に語ります。そこから思いもよらぬ発想、展開が浮かぶかも知れません。

* 宿泊者でなくても参加できます。その場合食事代は6000円です。申込書に記載してください。

見学会 5日(火) 13:30~16:00

安積疏水と水力発電所を予定

レポート発表（提案）・匠塾出店・教材教具発表される方へのお願い

誰でも自由に発表し、討論に参加できます。実践報告、教材や教具の発表、テスト問題など多様な提案や資料提供をお願いします。資料は80部用意して下さい。できるだけ事前送付をお願いします。

レポートや教材教具など荷物の送付は、**8月2日午前までに旅館 一鳳館「産教連大会実行委員会」宛て**にお願いします。レポート発表等を希望されるかたは、下記実行委員会に希望分科会とテーマを7月31日までにお知らせ下さい。

問い合わせ先 ●大会実行委員会 亀山 俊平 〒195-0061 東京都町田市鶴川4-28-5 TEL 042-734-5052 kame@mbj.ocn.ne.jp	●福島県西白川郡矢吹町立矢吹中学校 教諭 後藤 昌弘 自宅 TEL 0247-33-6518 FAX 0247-33-6044
------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------

- その他
- 1、キャンセルまたは変更の場合は、必ず、事務局(大会会計)の野本までご連絡下さい。
 - 2、キャンセルの時、参加費の返金は、資料の発送をもって代えさせていただきます。
 - 3、申し込みをされた方の氏名・住所などの個人情報、産業教育研究連盟(産教連)の活動以外には一切使用いたしません。

参加費 全日程参加 4000円(会員3000円、学生2000円) / 1日だけの参加 3000円(会員2000円)
 ※ 宿泊者でない場合、8/3(日)の夕食・交流会は**事前予約が必要**ですので、参加希望者は、参加費+6000円となります。

申込 産教連 webページ <http://www.sankyoren.com> から①申し込み(7/22まで)、②参加費等を下記口座にお振り込みください。
 または、下記の参加申込書を①事務局へ郵送のうえ、②お振り込み下さい。

振込先 三菱東京UFJ銀行 こうほく 港北ニュータウン支店 普通0605258 「産教連 さんきょうれん 全国研究大会」
 振込期日 7月25日まで(大会当日も受付けます。ただし宿泊は不可、必ず事前申し込みを)
 事務局 野本勇 〒224-0006 神奈川県横浜市都筑区荏田東4-37-21
 TEL 045-942-0930

第63次 技術教育・家庭科教育全国研究大会参加申込書

氏名 _____ 〒 _____ 住所 _____
 連絡先の電話 () _____ e-mail: _____
 所属(勤務先) _____

◆ あてはまる項目に○印をつけてください。

宿泊日	8/2(土)	8/3(日)	8/4(月)	宿泊日数 ()日 × 9,200円 (計)	()円
昼食注文	8/3(日)	8/4(月)	8/5(火)	()回 × 1,000円 (計)	()円
参加日:	8/3(日)	8/4(月)	8/5(火)	参加費: 一般 会員 学生 ()	()円
性別:	男	女		* 宿泊者でない場合は下の記入もお願いします。	
				交流会: 参加 不参加 ()	()円
				振込金合計 ()	()円

◆参加予定のテーマ別分科会: 1 2 3 4 ◆レポートの有無: 有 無

◆見学会 参加 不参加